

# かけはし



福島市立平田小学校 学校だより No.19

文責：校長 佐藤 裕子



## 第2回協働による学校づくりアンケートから

保護者の皆様、『第2回 協働による学校づくりアンケート』へのご協力、ありがとうございました。以下のとおり、全教職員が「いじめを許さない、見逃さない学級・学校づくりを行っている(4.0)」に対し、全児童が「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う(4.0)」と答え、保護者の皆様も「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと話している(3.8)」と協力してくださり、いじめ見逃しゼロ及び不登校のない学校づくりを行うことができ、ほっとしているところです。引き続き、全校児童が毎日楽しく学校に通い、一人一人が夢や志をもち、自分自身を磨き、鍛え、可能性を広げていくことができるよう教育活動にあたっていきたいと思います。



### 【児童】よくあてはまる項目 4.0

- ふるさと平田を誇りに思っている。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。

### 【児童】よくあてはまる項目 3.9

- 友達と仲良くできている。 ○将来の夢やなりたい自分をもっている。
- 生活科や総合などの体験活動に一生懸命取り組んでいる。

### 【児童】よくあてはまる項目 3.8

- 学校に行くのが楽しい。
- 元気よくあいさつや返事をしている。
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれている。
- 係や当番、委員会の仕事をしっかり行っている。
- 親は、あなたのよいところを認めてくれている。
- 授業はわかりやすく楽しい。
- 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立っている。

自由記述から  
 ◎平田小のみんなの笑顔が大好きです。よろしくお願ひします。  
 (2年保護者)  
 ◎平田ならではの教育活動の時間をとても貴重に思っています。また地域の方々のご協力に感謝いたします。  
 (3年保護者)  
 ◎全員が温かい平田小学校へ感謝します。いつもありがとうございます。(4年保護者)

### 【保護者】よくあてはまる項目 3.8

- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと話している。
- 学校は、各種たよりやホームページで情報発信し、子供たちの様子を伝えている。

### 【保護者】よくあてはまる項目 3.7

- 学校は、異年齢でかかわりながら学ぶ活動を通し、思いやりの心を育てている。

### 【保護者】課題と捉えている項目 2.5

- 子供は、毎日、家の手伝いをしている。

### 【保護者】課題と捉えている項目 2.6

- 子供は、ゲーム、携帯電話・スマホやコンピュータは、約束したことを守って使っている。
- ゲームやテレビ、インターネット、スマートフォン等は家のルールを守って行っている。

### 【保護者】課題と捉えている項目 2.7

- 子供は、よく本を読んでいる。

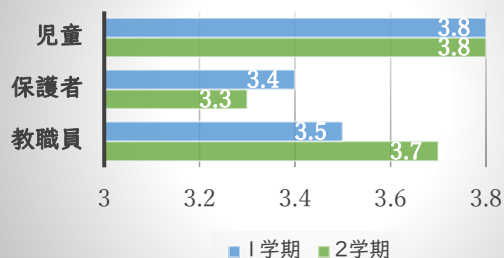
### 【保護者】課題と捉えている項目 2.8

- 子供は、学習用具の忘れ物が少ない。 ○子供は、何事にも失敗を恐れないで挑戦している。

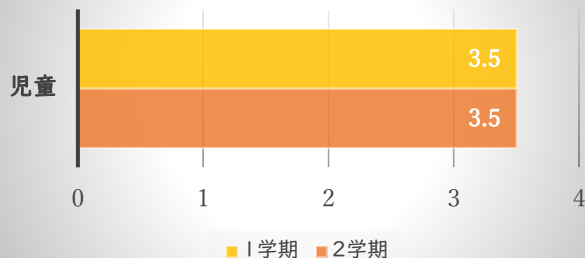
## 自己有用感を育むために…



認められている・認めている



自分にはよいところがあると思う【児童】



上記のとおり、児童アンケート項目「先生は、あなたを認めてくれている」「親は、あなたを認めてくれている」は、いずれも 3.8 でした。保護者アンケート項目「子供のよいところを積極的に認め、ほめている」は 3.3 となっております。今回は、社会性の基礎となる「自己有用感」について考えてみようと思います。

「自己有用感」は、人から認められた、人の役にたった、人から感謝された、と相手の存在なしには生まれてきません。「褒めて(自信を持たせて)育てる」という発想はもちろん大事ですが、「認められて(自信をもって)育つ」という発想の方が、子供の自信を持続させることができると言われています。

大人が子供を「褒める」とき、一般に大人の基準や水準で褒めます。逆に言えば、水準に達しない場合には「もっと頑張りなさい」となります。これに対し、子供が「認めてもらいたい」ときというのは、一般に子供の基準や水準で「褒められたい」のです。子供なりのこだわりで努力したり工夫したりしたことを「認められたい」。つまり、大人の考えた基準に達していなくても「褒めてほしい」と思うこともあるのです。

学校では、単に良かった・悪かったと評価するだけの「褒める」ではなく、学習や行事に取り組む際、子供自身に目標や工夫する点、努力する点などを考えさせておき、その基準にそってどこまで達成できたのかを評価する「認める」ことを大切に、自己有用感を育てていきたいと考えています。子供の振り返り等に対しても、その子供が「こだわった」「見てほしかった」点に触れ、励ましていきます。そのためにも、一人一人をきちんと見ていかなければならない、と今回のアンケート結果をもとに教職員同士、確認したところです。

子供の実際の行動と向き合うことなく、表面的にお世辞を言ったり、ちやほやしたりしても、子供の自己有用感が高まりません。自分がさほど努力もしていないことを「よく頑張りました」と一括りに褒められても、うれしくもなく、励みにもならないのは大人も子供も同じです。

ご家庭でも、大人の考えた水準で良かった・悪かったの評価にとどまることなく、子供基準の「褒めてほしい」を大事に認め、褒めていただければと思います。

### 【教職員】よくあてはまる項目 4.0

- いじめを許さない、見逃さない学級・学校づくりを行っている。
- 学校は、各種たよりやホームページで情報発信している。
- 学校は、いじめや不登校のない学校づくりに取り組んでいる。

### 【教職員】よくあてはまる項目 3.8

- 善悪の判断、自由と責任について指導している。
- 昼休みなどは外や体育館で元気よく遊ぶように声をかけている
- 「自分の体や命を自分で守ること」を大切に健康・安全指導を行っている
- 学校は、地域の教育力を生かした教育課程を編成し、実施・改善している。



\*\*\*\*\*保護者自由記述から

●リーバーを取り入れた事で、アンケート回答や体温入力等、便利になりましたが、一方で、紙で配布して欲しいものも電子化になり、可能でしたら紙での配付検討をお願いしたいです。(4年保護者)

⇒(7月19日付け市教委)「本市では「チャレンジ2050ゼロカーボンふくしま市」を目指す将来像として掲げ、令和32(2050)年度には温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを宣言しております。これを受け、学校から保護者への配付文書のペーパーレス化を推進します。2学期より、学校からの保護者への配付文書は原則としてリーバーの文書配信機能を活用願います。」という依頼に基づき、本校でもペーパーレス化に取り組んでおります。もちろん、必要なものにつきましてはリーバーと紙を併用してまいります。ご理解のほどよろしくお願いいたします。